

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 93

2015年9月15日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、大岩 孝彰 先生です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「シーズ&ニーズビジネスマッチング研究発表会」のご案内
(静岡県食品技術研究会第241回例会・静岡大学食品・生物産業創出拠点第39回研究会)
2. 静岡大学・中日新聞連携講座2015 「光の不思議な世界」のご案内
3. 2015ビジネス講座 「再生可能エネルギーを事業化する」のご案内
4. 静岡大学総合科学技術研究科工学専攻 事業開発マネジメントコース
「特別セミナー」開催のご案内

※問合せ先アドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更して
います。メール送信の際は[at]を@に変更してください。

-
1. 「シーズ&ニーズビジネスマッチング研究発表会」のご案内
(静岡県食品技術研究会第241回例会・静岡大学食品・生物産業創出拠点第39回研究会)

～～グローバル化の中の食品・生物産業と機能性表示食品～～

【開催日】2015年9月18日(金) 研究発表会10:00~17:05

【会場】ホテルプリヴェ静岡ステーション

静岡市駿河区南町8-5 TEL054-281-7300

研究発表会(3F)、ショートプレゼンテーション、ポスターセッション

(5F)

【詳細】

10:00~10:10 主催者挨拶

- ・静岡県食品技術研究会会長
- ・静岡大学・食品・生物産業創出拠点代表幹事
- ・静岡県中小企業団体中央会及び静岡大学博士キャリア開発支援センター代表

10:10~11:10 基調講演「茶の健康機能と茶産業の将来」
茶研究・原事務所(株)代表取締役社長 原 征彦 氏

11:10~11:30 研究発表①「大腸H2生成を介した食物繊維の新機能」
静岡大学 総合科学技術研究科 農学専攻 応用生物化学領域 教授 西村直道 氏

11:30~11:50 企業開発事例紹介①「静岡の特産品を使ったビール造り」
アオイブリューイング 代表 満藤直樹 氏

11:50~13:30 ショートプレゼンテーション・昼休憩

13:30~14:30 ポスターセッション(会場5F)

しずだい産学連携メールマガジンVol193

- 14:30~14:50 研究発表② 「緑茶によるストレスの軽減」
静岡県立大学 薬学部 統合生理学分野 准教授 海野けい子 氏
- 14:50~15:10 企業開発事例紹介② 「静岡大学ブランド日本酒“静大育ち”」
(株)大村屋酒造場 杜氏 日比野 哲 氏
- 15:10~15:30 研究発表③ 「食品の衛生管理におけるHACCPの導入に向けて」
東海大学 海洋学部 水産学科 食品科学専攻 教授 山本茂貴 氏
- 15:30~15:40 休憩
- 15:40~16:00 研究発表④ 「ミカン色素β-クリプトキサンチンの健康機能性」
農研機構果樹研究所 かき研究領域 流通利用・機能性・栽培生理研究ユニット
ユニット長 杉浦 実 氏
- 16:00~17:00 企業開発事例紹介
③ 「機能性表示食品制度 業界動向と三生医薬の取組み」
三生医薬(株) 研究開発部 企画開発課 学術係 建穂一樹 氏
④ 「ミラノ万博へのKatsuobushi発信プロジェクトについて」
(株)新丸正 代表取締役社長 久野徳也 氏
⑤ 「史上初ノンアルコール特保「サッポロプラス」の開発」
サッポロビール(株) 新価値開発部 坂下聡一 氏
- 17:00~17:05 閉会の挨拶
静岡県工業技術研究所所長 又は研究調整監

【交流会】 (5F) 17:15~19:00
※ポスター表彰式

【参加費】 セミナー 無料
交流会 会員:3,000円 会員外:5,000円

【主催】 静岡大学食品・生物産業創出拠点、静岡県食品技術研究会
静岡大学博士キャリア開発支援センター、静岡県中小企業団体中央会
静岡県工業技術研究所・静岡県食品産業協議会・公益財団法人 静岡県産業振

興財団

【後援】 静岡県立大学・東海大学海洋学部・静岡大学グリーン科学技術研究所、
静岡大学創造科学技術大学院

【問い合わせ先】

静岡大学食品・生物産業創出拠点 事務局
〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836
TEL:054-238-4631 FAX:054-238-3018
E-mail: oshirao[at]ipc.shizuoka.ac.jp

2. 静岡大学・中日新聞連携講座2015 「光の不思議な世界」ご案内

ノーベル物理学賞受賞で話題となった青色LED
日本の光技術に注目が集まる中、浜松の最先端の光研究をお届けします。

【日時】 2015年10月3日(土)~2016年2月13日(土)
【会場】 静岡大学浜松キャンパス 付属図書館浜松分室 (S-Port) 3階大会議室

【プログラム】

しずだい産学連携メールマガジンVol193

第1回：10月3日（土）14：00～16：00

『光子をとらえよ：X線の新しい情報を引き出すフォトンカウンティングCT』
電子工学研究所 教授 青木 徹

第2回：11月8日（日）14：00～16：00

『瞳をキャッチ：近赤外光を利用した瞳孔検出技術・視線検出装置の開発』
大学院総合科学技術研究科 教授 海老澤 嘉伸

第3回：12月5日（土）14：00～16：00

『自然界にない光で見えるものとは：テラヘルツ波の発生と応用』
電子工学研究所 特任教授 佐々木 哲朗

第4回：2016年1月23日（土）14：00～16：00

『トンボの目で極限現象を見る：ヒトとは違う見方で、見えてくる』
電子工学研究所 准教授 香川 景一郎

第5回：2016年2月13日（土）14：00～16：00

『近未来は光健康診断：光を使って体の活動や健康状態を測る』
大学院総合科学技術研究科 准教授 庭山 雅嗣

【受講料】 無料

【定員】 100名 申込先着順

【詳細】 <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event002262.html>

【申込】 下記いずれかの方法でお申込みください

FAX：054-238-4295

メール：LLC[at]entry.Lc.shizuoka.ac.jp

葉書：〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

静岡大学イノベーション社会連携推進機構 連携講座係

※郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、電話番号、講座名、参加回を明記してください。

3. 2015ビジネス講座 「再生可能エネルギーを事業化する」ご案内

本講座では、太陽光、木質・畜産系バイオマス、小水力などの再生可能エネルギーを活用した発電事業に興味関心のある事業者、NPO、地域活動者等の方々を対象に、事業化のための実践的・実用的な知識を身につけることを目指します。

【日時】 2015年10月8日（木）～12月3日（木）

【会場】 静岡市産学交流センター・B-nest

【プログラム】 講義（90分）を聴いた後、15:00からはグループワークと講師とのディスカッションになります。

第1回：10月8日（木）13：30～17：00

『地域参加型太陽光発電事業の実践』
白川地区再生可能エネルギー推進協議会 鈴木 俊雄 氏

第2回：10月22日（木）13：30～17：00

『木質バイオマス活用による地域電熱併給事業』
福島ミドリ安全株式会社 白石 昇央 氏

第3回：10月29日（木）13：30～17：00

しずだい産学連携メールマガジンVol193
『畜産系バイオマス・食品残渣活用によるバイオガス発電事業』
福島大学共生システム理工学類教授 佐藤 理夫 氏

第4回：11月20日（金）13：30～17：00
『小水力発電の開発ステップ』
全国小水力利用推進協議会 松尾 寿裕 氏

第5回：12月3日（木）13：30～17：00
『地域資源を活用した再生可能エネルギー事業の取り組み』
しずおか未来エネルギー株式会社 服部 乃利子 氏

【受講料】 無料
【定員】 20名
【詳細】 <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event002282.html>

【主催】 福島大学地域創造支援センター
静岡大学イノベーション社会連携推進機構
【協力】 静岡県地球温暖化防止活動推進センター

【申込・問合せ】 静岡大学イノベーション社会連携推進機構（担当：水谷）
TEL / FAX：054-238-4280
メール：mizutani.yoichi[at]shizuoka.ac.jp

4. 静岡大学総合科学技術研究科工学専攻 事業開発マネジメントコース 「特別セミナー」開催のご案内

100年後も愛されるキャラクターを目指して
“くまモン”誕生から今日までの軌跡（奇跡）
くまモンの事例を挙げて、最新の事業開発マネジメント成功の条件を紹介いたします。
どなたでもご参加いただけますので、ご興味をお持ちの方は是非お申込みください。

【開催日】 2015年10月18日（日）10時開場
【会場】 静岡大学浜松キャンパス 佐鳴会館 会議室

【詳細】
10：10～ ①「フェアユースビジネスの新展開」
静岡大学 教授 井上 春樹
10：25～ ②「100年後も愛されるキャラクターを目指して
“くまモン”誕生から今日までの軌跡（奇跡）」
熊本県くまもとブランド推進課 課長 成尾 雅貴 氏
（くまモンの育ての親）
11：40～12：00 質疑応答

【主催】 静岡大学総合科学技術研究科工学専攻事業開発マネジメントコース
静岡大学情報基盤センター
【後援】 静岡大学工学部ものづくり人材育成センター地域連携部門
浜松商工会議所、（公財）浜松地域イノベーション推進機構

【お問い合わせ・申し込み先】
sutv[at]shizuoka.ac.jp

* くまモンは当日来ません。

記：機械工学科 光電・精密コース 教授 大岩孝彰

私の産学連携活動のスタートは、静大着任直後に開催された産学官交流会（アクトシティ）での講演だったと記憶しています。前任地に実験装置を残してきたので、新天地で何か新しいことをやろう、と意気込んで研究計画を発表しました。

私の研究は精密なメカニズムの研究で機械工学の中でも比較的地味な分野だと認識していますが、講演の後にも県や市の産学連携団体が主催する産業界向けのいくつかの講演会で話す機会を頂きました。

また県の工業技術センター（現、工業技術研究所）や浜松地域テクノポリス推進機構（現、浜松地域イノベーション推進機構）の研究会の指導員、企画幹事および講習会講師なども務めさせて頂きました。本学地域共同研究センター（現、イノベーション社会連携推進機構）経由での技術相談も年々増えてきました。

以上のように県中西部の企業経営者や技術者の方々との交流や相談を通じて徐々に信頼関係が生まれ、結果的には県や経産省の助成金で産官学のコンソーシアムや共同研究に参画させて頂いたと思っています。

地域での産学連携活動や通常の学会発表の他、さらに並行して主に東京で年5回開催される研究会（精密工学会超精密位置決め専門委員会）へも参画してきました。この研究会は企業数十社と大学等研究者数十名が会員で、講演会や見学会および国内学会のオーガナイズドセッションの他、韓国、台湾と持ち回りで国際会議などを企画していますが、企業技術者との交流は言うまでも無く共同研究へのチャンスも多く、大変有意義に参加しています。

今後も全国と地域両方での産学交流に邁進する所存ですので、ご指導ご支援を賜れますようお願い申し上げます。

《大岩先生の研究にご興味をお持ちの方は下記HPをご覧ください》

<http://oiwa.eng.shizuoka.ac.jp/>

《 編集後記 》

この度、イノベーション社会連携推進機構の広報誌『CHI・KI・RI VOL.2』を発行いたしました。

今回の巻頭特集は「地方創生課題における地域・産学連携の在り方と人材育成」。日本政策金融公庫 浜松支店長の鋸屋氏と木村機構長の対談です。

政府が「地方創生」をモットーに地方の活性化と人口減対策に乗り出す中、大学は地方自治体、金融機関そして産業界と協働して地方創生にどのように貢献できるのか。『地域の中での大学の在り方』『地方大学に求められる人材育成』『産学連携の必要性』をテーマに語り合っていました。

静大発のベンチャー企業の紹介では、マイクロ波放電プラズマの「プラズマアプリケーションズ」、静大トマトの「静岡アグリビジネス研究所」、除菌消臭剤販売の「Exclothes」、小中高生向けプログラミング教育サービスの「プログメイト」の4社を掲載しています。

地域連携の活動報告として、地域連携応援プロジェクトの中から「記憶に残る造形活動プログラム」と「キッズチャレンジ静大図書館」、また域課題解決支援プロジェクトを紹介しています。

その他にも、静大講座の紹介や、共同研究のアンケート結果を掲載しております。弊機構の広報誌にご興味を持っていただいた方には郵送をいたしますので、お気軽にご連絡ください。

しずだい産学連携メールマガジンVol193

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
配信中止のご連絡は、sangakukoho5[at]cjr.shizuoka.ac.jp まで
お願いします。（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：谷口悠里

発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

TEL 053-478-1413

URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

Copyright (c) 2008-2015

Organization for Innovation and Social Collaboration,

Shizuoka University. All rights reserved